

日本国際美術家協会

VOL.27

Japan International Artists Society

2002年

フランス支部 FRANCE// 8, rue de Nesle 75006 Paris
 イタリア支部 ITALY// Canneregio 4391A, Venezia
 スペイン支部 SPAIN// Aribau 9, 2nd 1a, 08011, Barcelona
 ドイツ・オランダ・ベルギー支部
 GERMANY NETHERLANDS BELGIUM// Th Schaeckenstr.176221 VX Maastricht
 アメリカ支部 USA// DAVID KASTNER P.O.BOX 1362 New port Richey. FL 34656

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町
 1-6-12 周方社ビル5F
 TEL 03-3279-3101 FAX 03-3297-3103
 Japan : 5F Shuuhosha Bldg.,
 1-6-12 Muromachi Nihonbashi chuoku, Tokyo 103-0022
 E-mail : caea@objijas.co.jp
 http://www.objijas.co.jp

21世紀は、“日仏現代美術地球機構（仮）”が世界画壇の中心にあって、欧米国際展の精神と象徴的な運動体JIASの活動を核として更に高密度の創造体へ……………！

日仏現代美術展に思う ————— 山村助成

私達は、永年に亘り欧州美術クラブとJIASの代表者である馬郡氏を中心に、JIAS日本国際美術家協会員を始め広く全国各地の美術家の結集で発展して参りました。思えば1980年より、21世紀の初頭に至る歳月を重ねております。欧州の美術の歴史に一ページを飾る地位へと発展して来ました。いうまでもなく欧州の美術関係者からも信頼と期待を受けて居ります。

私達、会員にとって有難たいものとして、先ずユニークな企画のもとで展開されている美術展の中に毎年異なる国と地域で開催される美術展は、外国の文化との出会いや観光を兼ねての研修は人気の高い企画でした。私は好奇心の強い方ですから見聞を広め異文化に接する機会を与えて戴き、美術展の想い出は貴重な人生経験となりました。しかしながら今私達を取りまく社会環境に、避けて通れない問題が発生中です。国の内外において安全性の確保等問題があります。悪い時代は永続きはしないと信じています。今こそ誰もが正義感を強く持ち、知恵を出し合って活躍しようではありませんか。

「月にむら雲、花に風」、「晴れてよし曇りてもよし富士の山もとの姿はかわらざりけり」、私は自分自身にいい聞かせるつもりでこんな心境であります。ちなみに先日、横浜スカーフ・デザイン・コンクール審査を務める栄誉を頂きました。

新機構に期待を込めて(提言) ————— 吉田武彦

欧米とJIASが新機構を立ち上げ、さらなる飛躍を遂げようとする企図は、今後の美術界に大きな刺激を与えるものと期待する。

その期待を込めて、私は次のような二つの構想を提言したい。まず一つは、《地球》という壮大なネーミングの下に美術展を催行するのであれば、限られた国と日本、という従来の視野を大きく開く必要がある。もっとも、地球の全ての国を一同に、と考えると無理がある。そこでこのように発想する。大陸を幾つかの地域に分割し、そこに含まれる全ての国々と日本、とするのである。具体的には、東欧・西欧・北欧・北米・中米・南米……等14の地域に分割し、その各々と無理なく実施可能な範囲で行うことである。次に、様式・作風の多様性を今迄以上に幅広く受け容れることである。我国では、様式を限定した括りの展覧会も多い。中には従弟制の様相も窺え、恰も亜流展のようなものさえある。芸術活動の根幹ともなる個性・独創性をどう考えているのか、疑問に思えてならない。と言っても、国々の伝統を否定するつもりは毛頭無い。様々な国の作家達が自らの国の伝統を受け継ぎつつ、新たなものを創造する独創的活動を願うだけである。新機構が、そのような姿勢で創作を続ける作家を発掘し育成してもらいたいと思う。21世紀の新たな美術活動の潮流が、この新機構によって創り出されていくことを切に願って止まない。

日仏現代美術地球機構設立について ————— 小野功夫

JIAS機関誌（VOL.26）のなかで馬郡氏が世界機構の構想を、Divagation（わたしのたわごと）と遠慮がちに吐露されているのを読んだとき、私は、これは、たわごとではないが、おとぎ話（Conte de fées）だと思ったものである。

それは、この構想には夢はあるが、とても実現できるようなこととは思えなかったからである。

しかし、これまであらゆる国での展覧を通して感じてきたことは、どの国の人も現代作家の人と作品の交流を素朴に熱望している、という実感であった。

特に、アムビーユ氏やザッキ氏の真剣な情熱はもとより、チリの現代美術館長ブルニョリ氏の「わたしたちは名付けられた、という身分であるのに対し、日本の場合は自らを名づけることができたのです。……」と語られるとき。伝統と豊かさのなかで甘えていた己のうかつさと、責任の重さに背筋をただす思いがした。

馬郡氏の構想によると、世界のあらゆる団体や個人への参加を呼びかけることになるだろう。また、構想作りや理念について、多くの議論が必要になるだろう。きっと大変なエネルギーと苦勞があることが予想される。

しかし、夢を語り合うことは楽しい。しかしこの夢は、今は点の存在でも、世界中の熱い期待が掛かっているような気がする。

やるからには、この期待を裏切れることは許されない。

そのかわり、もしできたとしたら、21世紀にして人類史上はじめて興った世界を繋ぐ文化芸術のINFRAの創設になるかもしれない。などと、私も、おとぎ話を考えてしまっている。

日本人の特性 ————— 石飛 鴻

今年のプロスポーツ界は見応えがあった。イチローが米シアトルのマリナーズに移籍、本格的に大リーグでの力試しとなって我々も愈々懸け引きなしの実力勝負解禁という期待感がいや増した。終ってみればその大変な活躍は、在米選手も舌を巻く程の実績に米人も日本人も驚喜した。一方女子マラソン高橋尚子は天性の才能と苛酷な練習を消化して女子初2時間18分台の世界最高記録を樹立した。もっとも一週間後にはアフリカの選手に塗り変えられてしまったが……しかし今後を大いに期待しているところである。殊にイチロー一選手にあっては、米大リーグという手の届かないような高レベルにあったかに見えた世界をまさに日本的な思考と技術でバールを剥がしてくれた。それは日本人の細やかで緻密な技術（日本のお家芸）は米で大いに通用するという忘れかけた自信のない情念を……

日本の美術界は、それよりもっと閉鎖的でお城を永らえて来た。しかし人的物的交流、メディアの発達はそのことを留め置き得ない時代になさしめて来た。一時期日本人のアートが、スケールがないと見られ勝ちであった。私は日本人の持ち得る良さは、イチローの快挙のそのプロセスにあると思えるのだ。本来の日本人の特性は大いに主張されるべきである。そしてこのことは日仏現代美術地球機構が、リードしてくれると信じている！



残存願望の反射主体たる芸術は、人と人の最良の

“タブローは鑑賞者がつくる”と云われる様に、一発信者と複数の受信者が存在する。芸術作品は常に観る者の両極上に存在する。或る程度迄、鑑賞者は画家の意図に関わり、其処にメッセージを見出すものか？ だからといって、お互いの意図のやりとりのせいで、内容が枯れることがあってはならない。何故なら相互間には審美的関係が存在する故にであり、一鑑賞者の目が“画家の内面空間”を凌駕しえない理由にはならない。画家は視覚機能を再構築しており、即ち画家自身の視覚機能とし、知覚と相対する《距離》は、作品の客観的内容に大変重要な役割を果たすことになる。

この作品は、作品の中に、信号、意義、音楽、歌同様すべて新しい作者自身の生命を注入するのである。生命が一つの期待である画家は恐らく自分の神秘的メロディーを追いこみ、見失しない、そして再発見する為とその期待を是認するのだろうか。制作し終えたばかりの最新作ともなれば、朝から晩まで、夜から朝方まで絶え間なくメロディーが流れる間、作品は完成に至るのである。

絵画は充分音楽であり、屢々“図表的踊り”即ち、自らの読み方を其処に見出し、見振り、情熱、均衡といった多様の飛翔をみる大衆との異なる絆を伴うのである。結果、之等飛翔に依り多数の鑑賞者



上海の金魚 (水彩)

L'Art réflexe de survie, apparaît comme la meilleure des communications entre les hommes.

Il y a l'émetteur et les récepteurs (Ce sont les spectateurs qui font le tableau) . L'œuvre d'art est toujours basée sur les deux pôles du contemplateur et du créateur.

Dans une certaine mesure le spectateur cerne-t-il l'intention de l'artiste y trouve-t-il un message ? et cette intention de l'un ou de l'autre n'a pas à en épuiser le contenu, car il y a relation esthétique. Il n'y a pas de raison pour que le regard de l'un ne puisse dépasser (l'espace intérieur de l'auteur) .Celui-ci a restitué une vision-la sienne-et la 《Distance》 vis-à-vis de la perception joue un rôle éminent dans le contenu objectif de l'œuvre.

Celle-ci doit porter en elle : signe et signification, sa vie propre où tout est neuf, sa musique, son chant. Peut-être l'artiste dont la vie est une (attente) consacra-t-il celle-ci à traquer, à perdre, à retrouver sa mystérieuse mélodie ? Si la dernière toile achevée, la chanson court encore du matin au soir et du soir au matin, l'œuvre alors s'impose.

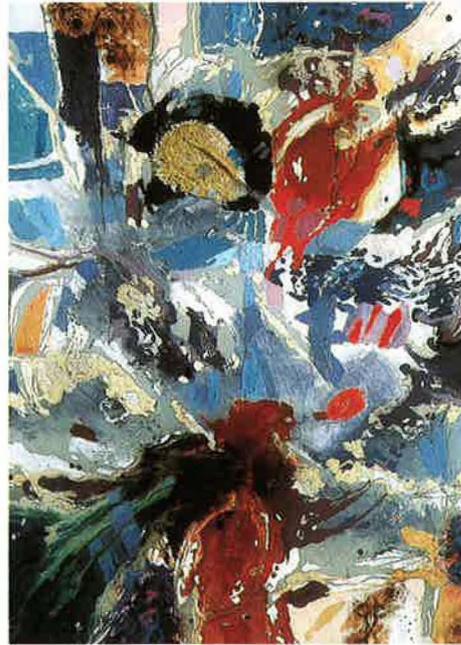
La peinture est bien une musique, elle accompagne souvent une (danse graphique) autre lien avec le public qui peut y trouver lecture à sa manière et y voir là les élans d'une gestualité, d'une passion, d'un équilibre aussi, qui peuvent satisfaire beaucoup d'entre eux et que ceux-ci auraient rêvé de créer au rythme des diverses composantes.

の慾求が満たされ、その他様々の構成分子のリズムに併せて創造を夢見ることを可能ならしむるのであるか。

若し芸術が“夢への扉”とするならば、作品は不断に再開せねばならない一つの終焉であり、画家、彫刻家の天職は反省と冥想であり、自身の主題は生証人に置き換えられる。雰囲気は破られ、それ故に内面的真実が見出されるのである。

同じ文章とて口遊む者、それを話しかける相手によって、意味の捉え方が異なるが、絵画と同様だ。同じ絵であっても眺める者次第で同じインパクトは伝わらない。

今日新しい生活条件から生れた環境の中で種々な文化が形成されているが、画家達は中就重要な役割を担っており、自ら形成されつつある世界の視覚機能を表現し、各世代ならではのイメージの反映を生み出



西洋と東洋の狭 (油彩)

Si l'art est (la porte du rêve) , l'œuvre est une finalité sans cesse à recommencer et la vocation du peintre ou du sculpteur est réflexive et méditation ; le sujet passif est transposé en témoin vivant. L'atmosphère est déchirée pour découvrir une vérité intérieure.

Une même phrase n'ayant pas le même sens selon qui la prononce, à qui elle s'adresse...De même en peinture une même toile n'a pas le même impact selon qui la regarde.

Aujourd'hui les Artistes ont un rôle prédominant de la formation des cultures, dans l'environnement né de nouvelles conditions de vie, ils expriment une vision du monde en train de se faire, ils apportent à chaque génération le reflet de leur propre image. Ils ont les yeux de leur époque et sont là pour enregistrer et créer, laissant ainsi la marque indélébile de leur temps.

Leur art réflexe de survie, apparaît comme la meilleure des communications entre les hommes, l'essentiel étant que ceux-ci trouvent moyen de transmettre le choc émotionnel qu'ils éprouvent.

Le peintre, le sculpteur, comme une sorte de miroir, renvoie au monde à travers sa sensibilité, son intelligence, son mode d'expression, l'organisation harmonieuse des formes de la nature ou de l'espace. Ce n'est pas une nouveauté. Il suffit de comprendre son langage et d'être présent. Il actualise les symboles de l'univers en laissant parler le langage de la vie.

通信手段と見做される

国立造型美術評議会会長●J I A S 名誉顧問
サロン・ド・トース理事/絵画部部长●S I P 副会長 etc.

バロン・ルヌアール
BARON・RENOUARD

す一方、画家はその時代の目を備えており、故に記録し、創造しつつ自分の時代の消し難い印を刻みこんでゆく。

残存願望の反射主体たる芸術こそ人と人の最良の通信手段となる。何故なら本質的なことは、人々が体験する感情的衝動を転置する手段を発見することにあるからである。

画家、彫刻家は一種鏡の様なもので、自らの感性、知性、表現方法を通して、自然と空間が織り為す多様な造型を調和よく組立て、鑑賞者に送り返す。今に始まったことではない。自分の言葉を理解し存在すれば充分である。命の言葉を語り続け乍ら、宇宙の様々な象徴を実現して行くのである。

その時、現実からの逃避ではなく、又戯れることなく、大切な事は、タブローの魂になることであるという表現価値と等価の境地に到達することである。之は即ち鑑賞者を即刻詩的狀況に誘う。心の満足を求める鑑賞者はそこに自らの人間性、自らの倫理観を発見し且つ独自の概念を導入するのである。人は故意に自然を破滅さえしなければ、自然は人間と共に在るということに気づく。画家は無意識の内に自然を受入れ、在る姿以上に在るがままに表現すべく考え抜いた自分自身の中に自然を再生する。自然は「熟考」、と「英知」の鋭い面を通過したことで、自らの感情的資質と理想的感覚の限界を逸脱しない。何故なら画家は《絵画の真只中に在る》のだから。

鋭敏な感受的状態とか慈悲心溢れる状態もまた、存在の基礎的行程を長時間掛けて経過すれば、寛大な魂の特権の場となろう。神秘や精神的知覚が大きな割合を占める。之等なくしては、息抜きの場が存在しないからである。

性格は考慮されねばならないが、人間的表現、単なる存在の感動、とりわけ感情力が大きな役割即ち触媒の役割を果す。熟慮された自発的印象は新鮮さを盛込みたい場合に、手本となり、造形語を加えたい場合、信号となる。その力が言葉である。

自然の開拓は意識的創造となる。芸術家達は、計算された進歩の中でキャンバスや大理石を入手し、自分ならではの構成を期し、一種人間味ある尺度で空間を埋める。芸術家の作業は正当化され、彼等の折衷主義は発展的、先見の明ある担保となる。この混乱極まる世の中で画家達は彼等に課せられた義務將又果すべき卓越した役割を意識して来た。彼等の自由になる財宝は画家相互間の触れ合いとアイデアの移行である。それ故に芸術は芸術家の基本義務の一つとして、人間の記述を運搬することであらねばならない。

Il ne s'agit pas alors de s'évader du réel, mais d'aboutir à une équivalence où n'entre plus en jeu que l'essentiel devenant l'âme du tableau... qui lie immédiatement l'observateur à une situation poétique. Le spectateur pour se satisfaire pleinement y découvre sa propre humanité, sa valeur éthique et y introduit ses propres concepts. Il s'aperçoit que la Nature accompagne l'Être sans pour cela l'anéantir. L'Artiste reçoit celle-ci inconsciemment en la créant dans son Moi contemplatif, pour la montrer plus réelle qu'elle ne l'est, cela dans les limites de ses qualités émotionnelles, de son sens idéal puisqu'elle est pass épar par les phases aiguës de la Réflexion et de la Sagesse ; car l'on 《Est en peinture》.

Aussi l'état réceptif ou l'état de grâce est-il le privilège d'une âme généreuse après les longues heures du parcours fondamental d'une existence ; le mystère et la perception spirituelle y prennent la plus grande part, car sans eux pas d'évasion.

Le caractère doit être pris en considération, l'expression humaine, la sensation d'une présence ou, entre autre, la puissance émotive joue un grand rôle : celui de catalyseur. L'impression de la spontanéité (réfléchi) est de règle si l'on veut conserver fraîcheur, le signe si l'on veut conserver son langage plastique. Son pouvoir est langage.

L'exploration de la nature devient création consciente. Ils prennent possession de leur toile ou de leur marbre dans une progression calculée, ils amalgament l'espace à une certaine échelle humaine dans une recombinaison personnelle, ils sont motivés et leur éclectisme est un gage de travail évolutif, clairvoyant. Ils ont pris



プルトーニユにて (水彩)

人々の必要に応じて、時には自ら最も厳しい裁き手となる画家は、或る特別なものを信じたい。殊に表現の自由の防衛、この社会での画家の位置付けの確保等々を願っている。そして万が一画家の言葉に偽りがあるとすれば、芸術は虚偽の温床と化すであろう。

《技術》

ありとあらゆるキャンバス上に描くアクリル素材を用い、櫛などの道具類で搔削った仕上肌を追求して来た。作品は最低24時間寝かせ乾かすことにしている。

描記的構成を主核とする油彩、アクション・ペインティング、黄金分割裁を追求するが、原則論を云えば、形状も表面仕上肌も常に不平等性を持たせる。換言すれば、小、中、大、寸法のフォルム、テクスチュール、線状乃至色彩等全て平面的且つ四方への気配りを欠かさない。

更に選んだ方向に従い、縦型キャンバスは、新しい構成の研究対象となる。主たる線が曲線によってキャンバスから跳び出して、別の面に戻って来る様なダイナミックな構図は、特権的に多用している。静止した別の構成方法即ち四角いキャンバス中では、円將又楕円形が主たる役割りを果す。

conscience des devoirs qui leur incombent et du rôle éminent qu'ils ont à jouer dans ce monde perturbé. Les trésors dont ils disposent sont leurs contacts mutuels, leurs transferts d'idées. L'art a donc comme l'un des ses premiers devoirs de véhiculer les rapports humains.

En répondant aux besoins des hommes, l'artiste qui est souvent son juge le plus sévère, veut croire à quelque chose, particulièrement à la défense de sa liberté d'expression et à l'affirmation de sa place dans notre société... Et si les mots peuvent mentir l'art est à l'abri du mensonge.

TECHNIQUE : matière acrylique sur toile universelle, reliefs grattés avec peigne ou autre instrument, séchage, repos 24 heures minimum.

Puis composition graphique, huile, action painting, recherche du Nombre d'Or, sur le principe d'inégalité dans les formes, dans les surfaces : petites, moyennes et grandes dimensions, traits ou couleurs-à travailler à plat dans les 4 sens-.

Ensuite toile verticale suivant le sens choisi, recherche d'une nouvelle composition. Privilège le composition dynamique où le Tracé sort de la toile par une courbe et revient ailleurs dans une autre face. Autre composition statique : un cercle ou un ovale dans le rectangle de la Toile.

BARON-RENOUARD